

現地企業買収でモロッコ貨物市場参入へ ■スイスポートインターナショナル

スイスポートインターナショナルは21日、モロッコ・カサブランカを拠点とする貨物ハンドリング会社、スイフトエア・モロッコを買収する拘束力のある契約を締結したと発表した。スイスポートはモロッコでグランドハンドリングや空港ラウンジ事業などを展開しており、今回の買収を通じて同国の貨物ハンドリング市場に参入する。スイフトエア・モロッコは、欧州・北アフリカで航空貨物輸送事業を展開するスイフトエア・グループのモロッコ法人。買収完了は規制当局の承認など通常の条件充足が前提。

スイフトエア・モロッコは、同国最大の航空貨物拠点であるカサブランカのムハンマド5世国際空港(CMN)で貨物ハンドリング事業を展開している。CMNはモロッコ全体の航空貨物量の約95%を取り扱う主要ハブ。同社は同空港の制限区域内で3700平方メートルの貨物上屋を運営しており、医薬品や生鮮品向けの専用冷

蔵室など、温度管理貨物に対応する設備を備える。今回の売却は、スイフトエア・グループが非中核事業を整理し、航空貨物市場での主導的地位をさらに強化する戦略の一環となっている。

SPIは貨物ハンドリング機能を加えることで、同国における総合航空サービス体制を強化する狙いだ。スイスポート・モロッコは現在、国内16空港でグランドハンドリングを提供しているほか、マラケシュ、カサブランカ、タンジェでビジネス航空向け地上支援サービスを展開し、空港ラウンジも運営している。

スイスポートのワーウィック・ブレイディ社長兼CEOは、「モロッコはダイナミックで急成長している市場であり、世界の貿易フローの中で重要性を増している。スイフトエア・モロッコの買収は、当社のグローバル貨物事業をさらに拡大し、成長を加速させる戦略を支えるものだ」とコメント

した。モロッコを「欧州、アフリカ、米州を結ぶ重要なゲートウェイ」（ブレイディ社長兼CEO）と位置付け、自動車、航空宇宙、農業、繊維などの輸出産業を支える一方、重要な輸入貨物の流通にも寄与していると説明。今回の買収により、同地域での貨物対応力を強化し、効率的で高品質なロジスティクス・ソリューションを顧客に提供する能力を高めるとした。

スイフトエア・グループは、ACMI（航空機・乗員・整備・保険）サービス、定期貨物ネットワーク、チャーター運航を欧州・北アフリカで展開する航空貨物輸送会社。グループは5つの航空運航事業許可（AOC）を持ち、航空機80機で77路線のネットワークを運営している。グローバルインテグレーターや大手郵便・パーセル事業者などを顧客に持つ。

モロッコは2030年FIFAワールドカップの共同開催国の一つで、インフラ投資や国際接続性の向上が見込まれている。SPIは、同国の航空・物流分野で長期的な成長余地が大きいとみている。